穂高わたぼうし（自己評価）

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		
	②	職員の配置数は適切であるか	○		
	③	事業所の設備等について、バリアフリーの配慮が適切になされているか	○		
業務改善	④	業務改善を進めるためにＰＤＣＡサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		
	⑤	保護者等向け評価票を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		
	⑥	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○
	⑧	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		
	⑫	活動プログラムが固定化されないよう工夫しているか	○		
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		

	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	○		
関係機関や保護者との連携関係機関との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害者福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動するん機会があるか	○		
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達や状況について共通理解を持っているか	○		
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		
保護者へ	㉚	運営規定、支援の内容、利用者負担額等について丁寧な説明を行っているか	○		
	㉛	保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		

の説明責任	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により保護者同士の連携を支援しているか	○		
	㉝	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
	㉞	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		
	㉟	個人情報に充分注意しているか	○		
	㊱	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		
	㊲	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		
非常時等の対応	㊳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		
	㊴	非常災害の発生に備え、定期的に非難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		
	㊵	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		
	㊶	どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		
	㊷	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	○		
	㊸	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		

穂高わたぼうし（自己評価）

改善目標、工夫している点など
基準のスペースは確保されている。
配置人数は適切である
常に職員間の課題として、活動の振り返りを行い次の活動に結びつけている。
避難訓練など、実際行っているのに知られていないことについては、通信などの手段での報告を行っている。
安曇野社協のホームページで公開している。
月に1回研修を設けて、職員間の知識の共有の機会を持っている。
事業所独自のアセスメント用紙を用いアセスメントを行い、特に必要な場合には個人の行動記録を用い、状況把握に努めている
各プログラムについて、責任者を決め、毎月の活動予定や準備などを行っている。
各月ごとにプログラムを行うことを原則としている
放課後の活動は通常のプログラムに応じた活動を中心に行い、休日には外出や調理実習、散歩などの活動を行っている。
各々の年齢や身体状況を考慮しながら計画を立てている、
始業前には打ち合わせを行い、当日の確認を行っている。
反省記録の記入を行い、振り返りを行い、それを次の日の始業時の打ち合わせに利用しいる。

穂高わたぼうし（自己評価）

研修会時に記録の研修を重ね、より適切な記録を作成できるようにしている。
半年に1回のモニタリングの実施に基づいて個別支援計画に反映をしている。
医療的ケアのある利用者は看護師配置がないため受け入れがない。
入学前には、こども園を訪問し、アセスメントを取って対応している。
要請があれば、学校の移行支援会議に出席して情報提供を行っている。
会議に出席して連携を取っている。
連絡帳や送迎時に情報交換をして連携している。
連絡帳や送迎時の面談において実施している。
重要事項説明書の説明時に説明し、変更があった時には書面にて通知を行っている。
面談にて、適切な支援と助言を行って、利用者本人とも話をして、共通理解をしている。

穂高わたぼうし（自己評価）

保護者会等の必要性を問うアンケートを実施したところ必要なしの回答が多く、違う形での交流を模索中
月に1回の通信を発行し、1ヶ月の活動を報告し、利用者全員に配布、長期休業時には写真を展示している。
年1回感染症及び緊急時に対する事業所の対策についての連絡を行っている。
長期休業の1日を避難訓練日として行って、緊急時の対応について話や訓練を行っている。
月に1回の研修の中ので行っている。
現在、身体拘束を行わなければならない利用者は、在籍していない。
利用前でのアセスメントで、確認しているが、今のところ指示書のある利用者はいない
小さなヒヤリハットでも申し送り等で、報告し、職員会での議題としている